

園長だより「素直な子ども」② 第30号

第29号の園長だよりで「子どもはみんな素直である」と書かせていただきました。もちろん「素直じゃないなあ」と思える言動を取ることもあります。子ども達が素直でなくなる理由は前号で書かせていただいた通り、次の3つです。

- ① 納得できない時
- ② 思い通りにならない時
- ③ 自分を見てもらえていないと感じた時

今回は子ども達が本来持っている素直さを持続的に発揮できるようにするために保護者の皆さんが日々の生活においてどのようなことを意識して子育てをしていけばいいのかということについて触れていきたいと思います。

① 言うことをコロコロ変えない

一貫性を持つことが大切です。昨日はテレビを見ながらご飯を食べてはいけませんと言っていたのに、今日はタイガースの大切な試合があるからサンテレビを見ながら食べる。子どもからすれば「なんで？」という混乱が生じます。脳が混乱していることは耳を傾けたくないという気持ちが強くなり、結果として素直でない言動が表出することになります。時にはイレギュラーことがあってもいいですが、お子さんのベースが確立するまでは日常ルールは一貫性を保つことが大切です。わかりやすさも大切です。家族やお子さんが守れそうなルールを考えてみてください。そしてそれをシンプルな言葉でわかりやすく伝え、習慣化していきましょう。

② ガミガミ言わない

言っている側（つまり保護者の皆さん）はそうすることで注意したつもりになったり、場合によってはスッキリしたりしていることが多いように思います。でもお子さんにはほとんど伝わっていないようです。「言葉だけに頼りすぎない」ことが大切です。皆さんも上司や先輩に毎日のようにガミガミ言われたらどう思いますか。「うるさいなあ。また言ってる。」ではないですか。悲しいことに、こちらは一生懸命伝えていても、本人には「うるさいなあ。」で、ほとんど伝わっていないのです。命に関わるようなことや人の心を傷つけるようなことについてはしっかり話を聞いてもらわなければいけません。そのためにも普段はガミガミ言うことは極力控えて、いつでも話を聞いてもらえるような関係性を作っておきたいですね。

残り行数が少なくなりました。書ききれなかった残り3つについては次号の園長だよりでお知らせしたいと思います。